

最近の SCOPE の動向

本年も残り僅かとなりました。皆様におかれましては、年末年始を控え、忙しい日々をお過ごしのところ、本SCOPE NEWSをお読み頂きありがとうございます。

この一年、皆様よりいただきましたご指導、ご支援に心より感謝申し上げます。

さて、SCOPEの最近の動向と当面の予定についてご報告いたします。

1. 空港土木技術講演会について

空港土木に関する新しい技術の周知を図る事を目的として、東京(11月5日)と大阪(11月17日)で「空港土木技術講演会」を行いました。講演の演題は①空港の災害対策にかかる国交省の取り組み、②米国空港インフラの現状とメンテナンスへの取り組み、③空港舗装の補修における留意点、④空港舗装の維持修繕材料に関する技術動向であり、東京会場では約70名の参加者を、大阪会場でも約60名の参加がありました。講演終了後、熱心な質疑応答も行われ、参加者の理解の一助となったことと思います。

2. 空港土木施設点検評価技士資格認定試験について

平成27年度からスタートした「空港土木施設点検評価技士」の認定試験が8月23日に行われ、11月20日に試験の結果が発表になりました。約130名の申込をいただき、59名の方が合格されました。また、この資格は、国土交通省が平成26年度から始めた、一定水準の技術力を有する民間資格の登録制度へ申請したところです。

3. 研究開発助成事業について

当センターでは、大学及び高専等の研究者及び研究グループに対し「研究開発助成事業」を平成13年度から行っております。

平成28年度も港湾、海岸及び空港の建設・維持管理事業の発注及び施工に係る技術及びシステム等の研究に対し、研究開発助成を実施いたします。

今回も大学等の研究機関から8件の申請がありました。今後の予定は、学識経験者による審査委員会を1月に開催し審査を行った後、3月末までに助成案件を決定し、平成28年4月から助成を行います。

4. SCOPE講演会について

第32回SCOPE講演会を1月19日に開催いたします。今回

は国立研究開発法人港湾空港技術研究所 計測・システム研究チームリーダーの松本上席研究官を講師にお招きし、「新技術を用いた水中施工・維持管理への取り組み」と題してご講演をいただくこととしております。音響ビデオカメラを用いた水中の状況確認方法等に関する最新の知見が得られることと思いますので、皆様の参加をお待ちしております。



専務理事
岩崎 三日子

5. 港湾施設の維持管理 実務技術研修

港湾施設管理者、法人及び民間業者等が蓄積してきた施設点検や劣化補修技術の講義及び現地視察とおし、維持管理の実務技術のスキルアップをはかることを目的とする実務技術研修を、東京で9月10・11日に開催いたしました。今回、同様の研修を2月9・10日に、大阪で行うことといたしました。現場見学の関係から30名と少人数での研修ですが、関心のある方の参加をお待ちしています。

6. 港湾工事積算基準講習会について

港湾管理者及び民間企業の積算業務担当者等に、港湾工事の積算基準に対するご理解を深めていただくとともに、積算基準の適正な運用が図られることを目的として、例年行っております「港湾工事積算基準講習会」を平成28年3月16日から、全国10会場(札幌・仙台・東京・新潟・名古屋・神戸・広島・高松・福岡・沖縄)で開催いたします。ホームページでの案内及び申込みの受付は1月下旬を考えております。

SCOPEは、来年も港湾および空港における技術の発展と技術者の育成に積極的に取り組んでまいりますので、皆様からの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

良いお年をお迎えください。

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 九州支部設立20周年式典を盛大に開催
- 2 『ザ・シンポジウムみなと in 稚内』実施報告
- 3 『港湾施設の維持管理実務技術研修』を開催
- 4 技術講習会の開催報告
- 5 JICA課題別研修を実施して
- 6 SCOPE 現場訪問 —アジアの玄関口として機能性向上のために—
福岡空港国内線ターミナル地域再編事業
- 8 SCOPEからのお知らせ

九州支部設立20周年式典を盛大に開催

(九州支部 副支部長 大池 義忠)

あいにくの雨模様の平成27年10月1日、ANAクラウンプラザホテル福岡において、九州支部設立20周年式典及び懇親会を約70名の方々のご出席を頂いて、盛大に開催しました。

式典は、九州支部白水事務員の司会により進められ、石貫九州支部長の開会あいさつに引き続き、ご来賓の方々よりご挨拶を頂きました。

最初に、九州大学大学院 工学研究院

海域港湾環境防災共同研究部門特任教授でSCOPE評議員を務めて頂いてる善功企様より「SCOPEは仕事上、体力を鍛えておかなければならない。文武両道をもって更に発展させて頂きたい」、「産官学皆でSCOPEを盛り立てていきたい。今後の発展を大いに期待する」とのお言葉を頂きました。



石貫九州支部長開会あいさつ



大谷鮎子特定非営利活動法人九州キラキラみなとネットワーク理事長

次に、特定非営利活動法人九州キラキラみなとネットワーク理事長でSCOPE評議員を務めて頂いてる大谷鮎子様より「わが国の伝統ある技術力を支え、牽引しているのが、他ならぬ港湾空港総合技術センターの皆さま方です」、「技術は人間が作り、支え続けていくものだと思います。人間の持つ熱い思いや、強い志があつてこそ新しい技術への挑戦は

果てしなく続けられます。その技術力を国民にやさしく、分かりやすく、楽しく、まじめに、誠実に、気長に伝えていくことが求められています」とのお言葉を頂きました。

次に、博多港ふ頭株式会社相談役で四港会の相談役を務められておられる江頭和彦様より「SCOPEの役割は、官と民の間の技術サービスを誠実にやることだと思う」、「職員が力を合わせて、九州の港湾空港の技術の発展とまた役所のサービス部門での下支えをやって頂きたい」とのお言葉を頂きました。

式典には、九州支部に在籍された先輩諸氏の方々も多数ご出席頂きました。

代表して二代目支部長の伊井光正様、三代目支部長の安藤信明様より、在職時の業務の思い出やご自身の近況などのご挨拶を頂きました。

最後に九州支部の事業概要説明を行い、約50分の式典は閉会となりました。

式典に引き続き懇親会を開催しました。

約2時間の懇親会では、ご来賓の方々と九州支部職員等々も20年を振り返りながら各テーブルでは色んな思い出話に花が咲き、予定の時間があつという間に過ぎ、最後に大野理事の中締めのおいさつで閉会となりました。

終わりに、今回の式典と懇親会は、短期間で九州支部職員等が計画から運営迄を行いました。ご出席を賜った方々に対しては必ずしもご満足のいく内容では無かったかとは思いますが、携わった職員等々の“おもてなし”の心が伝わったのなら幸いです。

『ザ・シンポジウムみなと in 稚内』実施報告

(北海道支部 企画部 総務課長 植松 満)

去る11月4日(水)、『ザ・シンポジウムみなと in 稚内』が稚内ANAクラウンプラザホテルで開催されました。このシンポジウムは地域発展の核となる「港湾」の役割や将来像などについて毎回地域の課題に即したテーマを設定し各界の専門家や産学官の関係者がそれぞれの立場から意見を交わすもので、平成6年の第1回(於：札幌市)から道内各都市で開催しております。(SCOPEは平成8年から実行委員会の構成員として参画)

また、稚内での開催は平成19年以来2度目になりますが、第23回の今回は「稚内港を拠点とした観光振興について考える」をメインテーマに第1部の基調講演ではNPO法人離島経済新聞社(東京)統括編集長の鯨本あつこ氏が「島の光を観に行こう～離島地域の観光振興」と題し全国に点在する離島観光の現状について映像を交えながら詳しく紹介し、特に印



シンポジウムの様子

象に残る体験の一つとして八丈島における「船や飛行機が欠航した際に島民有志が食事の提供や郷土芸能を披露する心のこもったおもてなし」は離島の弱点を克服する大変ユニークな取り組みであると述べました。



パネル展示の様子

第2部のパネルディスカッションでは、「インバウンド新時代に向けた課題と戦略的取組について」と題し鯨本編集長

のほか、利尻島でペンション経営をしながら観光ガイドや山岳ガイドを務める渡辺敏哉氏（まるぜん観光株式会社代表取締役）、稚内・利尻・礼文地区の営業担当としてフリーパス（5千円でフェリーとバスが4日間乗り放題）の実証実験を手掛けた伊藤誠氏（株式会社JTB北海道MICE・ソリューション営業課）、ダイビングやトレッキング経験が豊富な小松正明氏（北海道開発局稚内開発建設部長）ら4名のパネリストが藤崎達也氏（稚内北星学園大学情報メディア学部講師）のコーディネートにより離島観光の課題や今後の戦略について活発に意見を交わしました。

発言・提言の内容は以下のとおりです。

■ 離島観光の魅力

- ・ その島へ行かなければ観られない風景や動植物
- ・ 離島独特の文化や生活様式、習慣

■ インバウンドの課題

- ・ 両替所やクレジットカードを使用できる店がない
- ・ 日本最北端の稚内から利尻・礼文へ渡る観光客が少ない
- ・ 離島に情報発信に長けた人材が少ない
- ・ 観光客が6～7月に集中し通年観光が定着しない
- ・ 小さな島は観光客の受入能力に限界がある

■ 今後の戦略

- ・ 宗谷観光の広域化（北海道の周遊ルートに位置付ける）
- ・ 広域圏バス（交通手段、施設利用、観光サービス など）の実現
- ・ 各自治体、観光協会単位で運営している観光情報HPを一元管理



稚内港北防波堤ドーム（土木学会選奨土木遺産）

『港湾施設の維持管理実務技術研修』を開催

（建設マネジメント研究所 主任研究員 末村 経）

平成27年9月10日、11日の2日間に渡り、東京において『港湾施設の維持管理 実務技術研修』を開催しました。本研修は、港湾施設管理者、民間企業および法人が蓄積してきた港湾施設の点検や劣化補修補強技術の講義及び現地視察をとおり、維持管理の実務技術のスキルアップをはかることを目的に、平成25年度より実施しております。

今回の研修は、これまで港湾施設管理において予防保全を積極的に取り入れ、戦略的な維持管理ノウハウを有する、東京港埠頭株式会社（以下TPT）と共同開催し、港湾施設の維持管理を担う港湾管理者、民間の港湾施設管理者、建設業者等28名にご参加頂きました。



初日はまず、TPTから大井ふ頭再整備事業後の予防保全型維持管理の取組とその効果、具体的な点検診断や補修方法について、ご説明頂きました。次に、ショーボンド建設（株）より、港湾施設のコンクリート構造物のひび割れ、劣化、損傷等の要因、その種類・原因ごとの補修工法の選定と今後の方向性等を説明、（株）ナカボーテックより、港湾施設の腐食機構

と鉄筋コンクリート構造物の電気防食工法の原理、鋼構造物（下部工）の防食対策や維持管理・点検診断技術の具体例等を説明して頂きました。また、（一社）日本埋立浚渫協会からは、最新の補修補強技術の施工方法等について、工法等の長所・短所を交えて、映像による工法事例紹介を含めて詳細にご説明頂きました。

2日目は、大井ふ頭第2バースにて、栈橋上部工の下面に設置している補強工事の足場を利用し、現在の施設状況の確認、点検診断方法および補強工事内容についてTPTの担当者と工事の受注者に説明して頂きました。また、栈橋上部においては、TPTの担当者から大井ふ頭を含めた現在のふ頭管理について説明して頂きました。

引き続き午後より、品川駅前の会議室にてSCOPEから、港湾施設の維持管理を取り巻く現状と国やSCOPEの取組み、本年4月に国交省港湾局より公表された『港湾の施設の維持管理計画策定ガイドライン』の要点およびタブレット等を用いた栈橋点検診断の汎用ツールと港湾施設の点検・補修技術ガイドブックについて、デモを交えて説明しました。

引き続き午後より、品川駅前の会議室にてSCOPEから、港湾施設の維持管理を取り巻く現状と国やSCOPEの取組み、本年4月に国交省港湾局より公表された『港湾の施設の維持管理計画策定ガイドライン』の要点およびタブレット等を用いた栈橋点検診断の汎用ツールと港湾施設の点検・補修技術ガイドブックについて、デモを交えて説明しました。



各講習や視察においては、参加者から多数の質疑をいただき、改めて維持管理への関心の高さをうかがい知ることができました。

研修において参加者から頂いた御意見等を踏まえ、更に維持管理業務に役立てていただけるように、大阪での本年

度第2回目の開催を含めて、今後も有意義な研修となるよう取り組んで参ります。



■ 港湾施設の維持管理 実務技術研修プログラム

【1日目】講習会（平成27年9月10日(木) 13:30 ～ 17:20）

- ・東京港における点検補修技術等について 東京港埠頭株式会社
- ・港湾施設の維持管理に関する点検・補修技術について その1 ショーボンド建設(株)
- ・港湾施設の維持管理に関する点検・補修技術について その2 (株)ナカボーテック
- ・最新の補修補強技術の施工方法等について (一社)日本埋立浚渫協会

【2日目】現場視察および講習会（平成27年9月11日(金) 9:00 ～ 16:00）

- ・現場視察等 東京港埠頭株式会社
- ・維持管理の最近の動向と実務等について (一財)SCOPE

技術講習会の開催報告



11/17（土）東京会場の状況

海上・空港工事施工管理技術者の技術力の向上を図ることを目的として技術講習会を開催しました。技術講習会は10月に、東京、名古屋、高松、沖縄の4会場で

開催され、計194名の方が受講しました。講習内容は、大学教授の講演、継続学習の課題等についての講習を行った後に、海上工事技術者と空港工事技術者に別れて講習を行いました。海上工事技術者は、プロジェクト報告等についての講義を、空港工事技術者は、空港の舗装等についての講義を受講しております。受講生には、最後に受講報告書を作成して頂いています。各講演の内容は、下記の通りです。また、沖縄では、10名の方が現地研修会に参加しました。現地研修会は、那覇空港の整備プロジェクト等の説明を聴講し、実際に稼働している空港工事の現地を視察しております。

なお、本技術講習会は毎年春と秋に開催しており、一般の方も聴講（有料）いただけます。

○大学教授の講演

「社会資本の老朽化と維持管理の課題について」

東洋大学 福手 勤 教授（名古屋、高松、沖縄）

「土木構造物の寿命と品質確保」

横浜国立大学 池田 龍彦 名誉教授（東京、名古屋）

「国際建設市場から見た日本の建設産業の技術力」

（東京、沖縄）、

「公共プロジェクトの契約問題の動向と必要なマネジメント技術」（高松）

高知工科大学 草柳 俊二 名誉教授

（審査・認定部 主任研究員 島田 伊浩）

○プロジェクト報告

「海上橋脚のニューマチックケーソン大深度施工」

東洋建設(株) 金子 修司 氏（東京、高松）

「茨城の外洋における防波堤工事等について」

東亜建設工業(株) 石川 和之 氏（名古屋、沖縄）

「港湾施設の維持管理のポイント」

五洋建設(株) 小笠原 哲也 氏（高松、沖縄）

「海上・空港工事における情報化施工、ITC活用事例」

五洋建設(株) 石田 仁 氏（東京、名古屋）

○空港の施設について

「空港制約条件下における施工～成田空港の事例紹介～」

成田国際空港(株) 安藤 丈弘 氏（東京、沖縄）、

濱 聖哉 氏（名古屋、高松）

「空港舗装のメンテナンス工事」（東京）、

「空港舗装のマネジメントシステム」（名古屋）、

「空港舗装の現状と課題」（高松、沖縄）

SCOPE 八谷 好高 客員研究員

○資格について

「継続学習に関する一考察について」

SCOPE 島田 伊浩 主任研究員（東京、名古屋、高松、沖縄）



10/2(金)那覇空港整備プロジェクト：現地研修会の視察現場

JICA課題別研修を実施して

(建設マネジメント研究所 上席研究員 西川 隆晴)

1. はじめに

SCOPEでは、JICAより課題別研修「空港の建設、運営・維持管理計画策定」に関わる課題別研修を受託し、平成27年8月26日より平成27年10月2日までの期間で技術研修を実施しました。この研修は、3カ年を1タームとし、平成24年度より実施し、今年で4回目となります。

ICAO(国際民間航空機関)によると「2005年から2025年の航空需要予測は、アジア太平洋地域と中東で5.8%、アフリカで5.1%増加すると予測されております。こうした航空需要の増大が著しい開発途上国での空港整備においては、政策や安全技術を考慮した建設から、建設後の安定した運営や効率的な維持管理までの総合的な計画が必要となります。本研修は、こうしたニーズに対して、空港の建設から運営、維持管理に関する総合的な知識を研修するとともに、空港の開発計画に関する専門的な相談を行う機会を参加者に提供することを目的としています。また、本研修は、我が国が進めている、「海外インフラ案件の川上から川下までの一貫した取り組みへ支援」の一つとして位置づけられています。

2. 参加者および参加国

今年は、11カ国14名の研修員が参加しました。参加国は以下の通りです。

アフガニスタン 1名、バングラディシュ 1名、エジプト 2名、インドネシア 2名、マラウィ 1名、モンゴル 1名、ミャンマー 1名、ネパール 2名、サモア 1名、スリランカ 1名、東チモール 1名：計14名

3. 研修内容とスケジュール

研修は4つの単位から構成されており、下記のような内容となっています。

単位1: 自国において、自国空港の現状および課題分析、研修目的をまとめカントリーレポートを作成、発表する。

単位2: 当該技術研修において、空港の建設、運営、維持管理に関する知識を習得する。

単位3: 技術研修で得た知識・経験を基に、自国の現状を考慮した空港の建設、運用または維持管理計画についてのアクションプランを作り発表する。

単位4: 帰国後に自国部署等で研修結果やアクションプランをどのように共有し、理解を得ているか。その結果を帰国後3ヶ月後に報告する。

今年の研修のスケジュールは以下の通りです。

平成27年8月24日 来日

平成27年8月26日 航空局表敬訪問、技術研修開始

平成27年8月27日 カントリーレポート発表会、
ウエルカムパーティ

平成27年8月28日から、技術研修および羽田、那覇、新関西、岡山、神戸空港の運用状況研修・視察

平成27年10月1日 アクションプラン発表会

平成27年10月3日 帰国

平成28年 1月末 プロGRESSレポート受領、
(平成28年2月15日工期)

4. あとがき

訪問したことのない未知の国から研修に来ている研修員もあり、研修員との交流は非常に興味深く、新しい発見がそこにあります。本研修では、SCOPE本部会議室で、カントリーレポート発表会、アクションプラン発表会等を開催しており、次年度も実施する予定です。航空に関するJICA研修は、航空保安に関する研修、航空管制に関する研修、および空港整備に関する本研修の三つからなっており、本研修は円借款等による空港整備の案件形成の促進および事業の効果発現に寄与することを期待したものであります。空港整備、運営、維持管理に関する民間企業様のご意見、ご参加を期待し、お待ちしております。



Site Visit

SCOPE 現場訪問

—アジアの玄関口として機能性向上のために—

福岡空港国内線ターミナル地域再編事業



九州支部

調査役

テクニカル・エキスパート

外戸保 勝さん

斎藤 守さん、後藤 博文さん

上中 啓市さん、原田 真寿さん

大川 慎吾さん

People who create port and airport.

早急な改修が必要な福岡空港

福岡空港は成田、羽田に続いて利用者の多い空港で、西日本の拠点、またアジアの玄関口として大きな役割を担っています。平成26年度の利用者は2,000万人以上、離発着回数は17万回を超えています。滑走路1本のみで運営している空港としては日本一過密な空港であり、国内線側の平行誘導路も1本のため、混雑時には出発機と到着機の集中に伴う遅延や待機が慢性的に発生しています。さらに国内線旅客ターミナルは建設後30～40年以上経過しているため老朽化し、手狭になっていることも問題となっています。



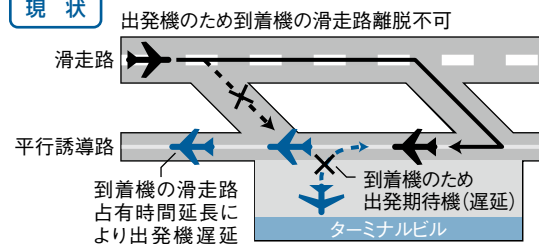
▲第1ビルのエプロンの様子（取材当日）

こうした問題に対応するため、平成24年度から航空機の遅延・待機解消策となる平行誘導路の二重化整備と、これに併せて国内線旅客ターミナルの建替え、改修が行われることになりました。すでに用地確保のための、駐車場の立体化とバス専用駐車場の整備が行われ、エプロン冠水対策となる排水路の付替え工事が実施されています。

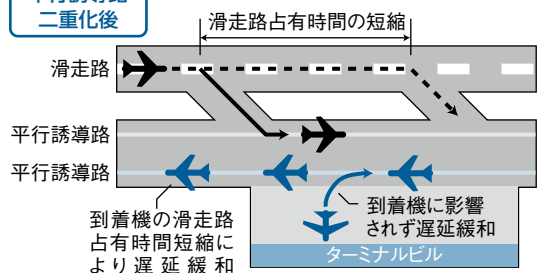
「今後はビル解体とエプロン拡張工事が行われる予定です。整備状況は、第3ターミナルビル前に立体駐車場を作り終え、

■ 平行誘導路二重化による遅延・待機緩和効果の例

現状



平行誘導路二重化後



現在は第1、第2ターミナルビル前に排水溝を設置し、同時に構内道路の切り替えを行います。その後、新しい旅客ターミナルを建設する計画です」（調査役 外戸保さん）

People who create port and airport.

市街地での工事は騒音・振動に配慮

取材時は、排水溝の工事が行われていました。

「排水管を入れるためにまず鋼矢板を打ち、土留めの壁を作り地盤を掘削し、そこに排水管を設置して埋め戻します。鋼矢板は約2,000枚あり、枚数や打ち込んだ深さが規定どおりに行われているかを確認しています」（調査役 外戸保さん）

福岡空港は市の中心部にあり市街地と同様の工事となるため、騒音・振動などの環境問題にも十分な配慮がされています。



▲排水管 (FRPM管 φ2,000mm×2本) の設置状況

「騒音・振動対策としては、鋼矢板を支持地盤まで打設する時に単純に叩いて打ち込むのではなく、オーガによる先行掘削をしながら圧入する方法を採用しています。その方法だと音や振動が少なくなります。また、地下鉄の出口が現存のビルの地下にありますが、このビル自体をセットバックしますので、同時に福岡市さんが地下鉄出口の移設工事を行っています。隣接して工事を行っているため、当然振動も互いに影響してきます。現場では防音シートを使用したり、場所によっては防音用の壁をつくっています。デシベル管理も行いますが、鋼矢板を圧入する際はサイレントパイラーを使っていて、騒音や振動はほとんどありません」(テクニカル・エキスパート 齋藤さん)



▲鋼矢板(土留矢板)打設状況

「通常は空港土木といった制限区域内の夜間作業になるのですが、今回は排水工事や駐車場の工事など制限区域外の工事を行います。制限区域外では空港利用者や車両などとの接触や渋滞に注意が必要です。一般県道に隣接したところでも作業をしているので、バリケードや誘導員を配置し、歩行者通路に隣接した現場では丁張りなどが飛ばされないよ

う飛散防止の網を張ったりしています」(テクニカル・エキスパート 大川さん)

People who create port and airport.

供用しながらの誘導路舗装工事

誘導路のコンクリート舗装工事は、供用しながらの工事となるため作業時間は夜11時から朝6時までと限られています。

「工場でコンクリート版 (PRC版) を製作します。毎日、夜11時から既設の舗装を剥がし、新しいPRC版を2~3枚程度据付けます。6時には誘導路を開放し、7時には航空機が使えるようにしなければなりません。閉鎖できる場所であれば現場でコンクリートを打つことができますが、これは供用現場ならではの工法です。わだち掘れがある箇所は元の路盤も舗装します。路盤とPRC版の間に超速硬セメントを使用した特殊なグラウトを注入します。通常のグラウトを使用すると、3日程度かかりますが、これだと約2時間で固まります。強度が出ているかを確認して完了させます。雨が降ると施工はできないので天候にも注意が必要です。また、耐震化のための滑走路の地盤改良も実施していますが、穴を垂直ではなく横から開けて薬液を注入し、地盤を強固にする曲り削孔という工法を採用しています」(テクニカル・エキスパート 上中さん)

「施工品質の確保はもちろん、旅客や通行者などにも細心の注意を払う心がけています」(テクニカル・エキスパート 原田さん)

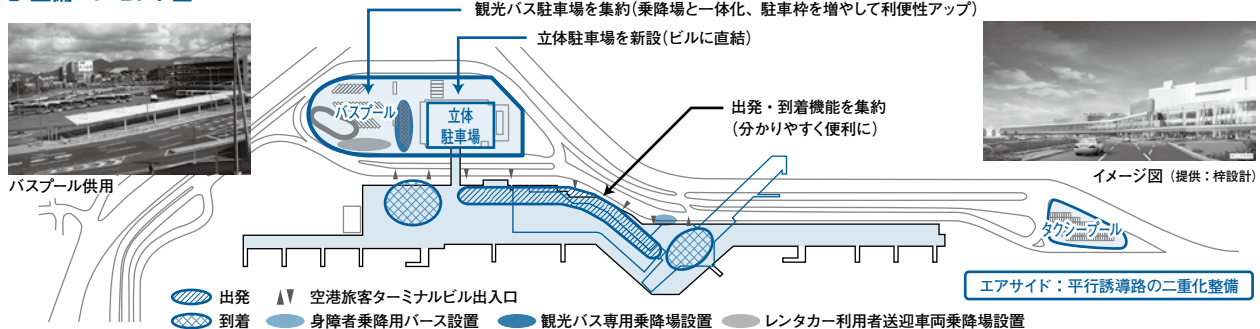


▲調査役 外柵保さん

▲左から大川さん、後藤さん、齋藤さん、原田さん、上中さん

アジア近隣からの観光客も増加し、福岡空港が担う役割はますます大きくなっていきます。本事業の完成により、空港としての機能性がアップし、国際競争力も高まることが期待されています。

■ 整備コンセプト図



※平成24年設計時の参考図であり、細部については実施段階において関係者と調整して整備

People who create port and airport.

Voice

発注者である国土交通省 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所 福岡空港出張所の
先任建設管理官 木村 良司さんにお話を伺いました。

利便性の高い都市型の空港なので関係事業者也多岐にわたります。事業を行うにあたって、空港に隣接している河川（『吉塚新川』と『宇美川』）の管理者（福岡市）との協議も行いました。今回の工事では、河川に限らずさまざまな要素がある周辺の環境を考慮した調整が非常に重要になります。実際の工事に関しては、一般の方々が空港を利用されるので、利用者の動線を確保することが一番大切です。工事のため利用ができなくなることがないように、調整しながら進めていくことが使命だと思っています。工事車両や機材等の事故も起こさないようにしなければなりません。狭い場所での難しい工事ですが、安全についてもきちんとマネジメントしながらやっていくことが一番大事です。



People who create port and airport.

Voice

関連事業者である福岡空港ビルディング株式会社のお二人にお話を伺いました。

【施設部 施設課長 中原 和浩さん】

エプロンの拡張や誘導路の二重化は国の事業で、私たちの事業はそれと整合性をとる必要があります。国が計画したスポットに対して、きちんと搭乗できる設備を持った建物を計画するというものです。現在は、『1ビル』と『2ビル・3ビル』がそれぞれ独立したターミナルビルになっていますが、再整備後はひとつのターミナルビルとして繋がり、利便性も向上します。直結している地下鉄を降りて改札を抜けたら、すぐにターミナルビルの地下に入り、大きな吹き抜け空間が広がり、自分が行きたいフロアまで直接行くことができるというように動線もよくしていく計画です。また、到着と出発の動線を完全に分離することで安全性を高め、利便

性にも十分気を配っていきます。空港を運用しながらの工事で、地下鉄の駅舎上に新しいビルを建てなければなりませんので、全国でも稀に見る難しい工事になると思いますが、安全に確実に工期の中で再整備していくということが私たちの課題だと思ってこのプロジェクトに取り組んでいます。

【地域・広報部 地域・広報課

主任 藤川 由香さん】

展望デッキは今よりも飛行機が近くから見えるようにする計画です。航空機をご利用されないお客様にも楽しんでいただける施設も考えており、空港をもっと身近に感じていただけるような空港にしていきたいと思っています。



▲外観イメージ図（提供：梓設計）



▲吹き抜け空間イメージ図（提供：梓設計）

取材・文：(株)ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

平成28年1月以降の主な行事予定

- 第32回 SCOPE 講演会
1月19日（火） 東京都千代田区霞が関 3-3-1 尚友会館 8階
国立研究開発法人 港湾空港技術研究所
チームリーダー 松本さゆり様
予定演題： 新技術を用いた水中施工・維持管理への取り組み
- 第35回 公共調達講演会
2月1日（月） 東京都千代田区霞が関 3-3-1 尚友会館 8階
講師 高知工科大学 名誉教授 草柳俊二先生

※詳細は、当センター HP でご確認ください。

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

U R L : <http://www.scopenet.or.jp> E-mail : info@scopenet.or.jp

本 部 : 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-1 尚友会館 3階

代 表 T E L : 03-3503-2081 F A X : 03-5512-7515

※本誌は、環境に優しい大豆インクで印刷しています。